

職員のキャリア支援に関するニーズ調査

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター 啓蒙広報担当・保育施設関連担当 合同調査

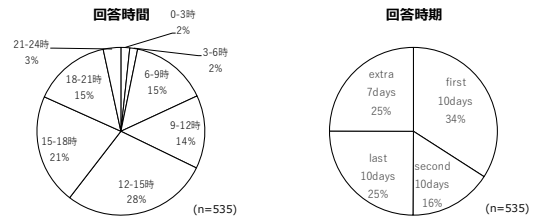
ニーズ調査の背景と目的

調査の背景：

本センターでは、本学の職員がより快適に仕事を続けていくことができるよう、職場環境の実態把握と支援内容の評価を実施し、保育施設・制度の整備（病児保育（平成22年～）、夜間保育（平成23年～）、全職員の施設利用開始（平成24年～））や、キャリア支援に関する講演会・交流会の企画を展開している。これらの実現・推進は、本学の次世代育成支援対策行動計画・女性活躍推進計画を達成するための重要な活動となっている。前回（2018年）調査では、職場に不足する院内保育施設・制度が明らかになり、回答者の82.3%がさらなる改善を求めていることが明らかになった。また、一部の職種や年代では回答率が低下しやすいことが特定された。さらに、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う職場環境の変化も想定され、調査を行うこととなった。

調査目的： 職員のキャリア形成における支援ニーズの把握

回答者の基本属性 3 (回答時間はWeb回答のみ)



ニーズ調査の概要

調査期間： 2022年 7月20日 - 8月26日

調査方法： Google FormでのWeb調査および質問紙調査の併用

周知方法： メール（7/20, 8/9, 8/19）およびポスターの掲示

回収方法： Google Formへの回答および回収箱（学内3か所）

質問項目： 5問/10問※ ※分岐質問形式とした

調査対象者： 自治医科大学 職員（栃木のみ）

医師・研究者、医療技術職員、看護職、事務職員

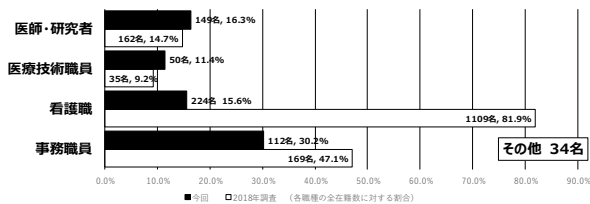
回答者の基本属性のサマリー

- 2018年調査に比べて全体の回収率は減少したが、医師・研究者や医療技術職員では増加がみられた
- 女性の意見が反映される結果となった（2018年調査と同様）
- 2018年調査に比べて医師・研究者、医療技術職員、事務職員の意見がより反映される結果となった
- 20-50代の意見がバランスよく反映される結果となった
- 回答時間や回答時期について、職種や年代ごとの偏りはあまりみられなかった。8/9や8/19のリマインダー通知後に回答数が大きく増加した（約2倍）

回答者の基本属性 1

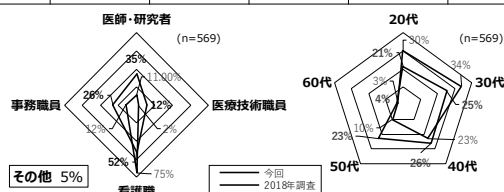
回収数 569件 回収率 18.0% (2018年調査 46.1%)

(Web回答は531件 紙回収は37件 ※うち1件は無効回答)



回答者の基本属性 2

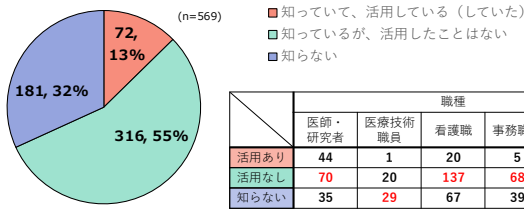
	今回 (n=569)			2018年調査 (n=1,467)	
	男性	女性	その他	男性	女性
人数(割合)	140 (26.0%)	427 (73.8%)	2 (0.4%)	191 (13.0%)	1276 (87.0%)



センターの活動内容の認知度

センターの活用度（全体、職種別）

Q1. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか



	職種				
	医師・研究者	医療技術職員	看護職	事務職員	その他
活用あり	44	1	20	5	2
活用なし	70	20	137	68	21
知らない	35	29	67	39	11

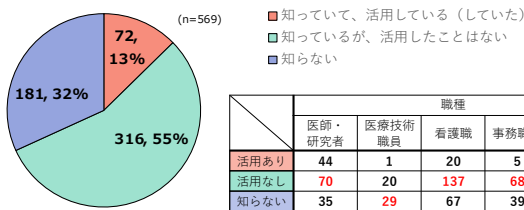
支援制度の認知度（年代別）

Q2. 大学に隣接している「わかくさ保育園」は、空きがあれば、下野市在住以外の自治医大職員も利用できる場合があることを知っていますか
 Q3. 職員の育児支援を行うための「あいりす※」という保育施設があり、自治医大職員が一時託児、病児・病後児保育、夜間保育を利用できることを知っていますか

		全体	年代 (n=569)				
			20代	30代	40代	50代	60代～
わかくさ保育園	知っていた	282	30	70	92	73	17
	知らない	287	92	75	58	57	5
保育施設ありす	利用あり	78	2	25	40	10	1
	利用なし	351	59	82	99	92	19
	知らない	140	61	38	11	28	2

センターの活用度（全体、職種別）

Q1. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか



	職種				
	医師・研究者	医療技術職員	看護職	事務職員	その他
活用あり	44	1	20	5	2
活用なし	70	20	137	68	21
知らない	35	29	67	39	11

センターの活動内容の認知度のサマリー

- 回答者の約6割はセンターの活動を認知していたが、センターを活用しているのは約1割の職員にとどまった
- 医療技術職員や看護職や事務職員に比べて、医師・研究者の職員はセンターの活動を認知している者の割合が多かった
- 年代ごとの割合で、センターの活動や「わかくさ保育所」や保育施設「あいりす」を活用している職員がより多いのは40代であった。また、活用したり認知している職員がより少ないのは20-30代であった
- 職種ごとの割合で、認知している職員がより多いのは、「わかくさ保育所」では看護職、保育施設「あいりす」では事務職員であった。また、認知している職員がより少ない職種は医療技術職員であった

センターの活用度（性別、年代別）

Q1. 医師・研究者キャリア支援センターの活動内容をご存じですか

	性別 (n=569)			年代 (n=569)				
	男性	女性	その他	20代	30代	40代	50代	60代～
活用あり	14	58	0	4	19	35	12	2
活用なし	84	231	1	56	69	89	83	19
知らない	42	138	1	62	57	26	35	1

20代の職員の50%、30代の職員の39%がキャリア支援センターの活動を知らない

20代の職員の3%、30代の職員の13%しかキャリア支援センターを活用できていない

支援制度の認知度（職種別）

Q2. 大学に隣接している「わかくさ保育園」は、空きがあれば、下野市在住以外の自治医大職員も利用できる場合があることを知っていますか
 Q3. 職員の育児支援を行うための「あいりす※」という保育施設があり、自治医大職員が一時託児、病児・病後児保育、夜間保育を利用できることを知っていますか

		全体	職種 (n=569)				
			医師・研究者	医療技術職員	看護職	事務職員	その他
わかくさ保育園	知っていた	282	73	16	123	52	18
	知らない	287	76	34	101	60	16
保育施設ありす	利用あり	78	46	5	20	5	2
	利用なし	351	69	25	149	85	23
	知らない	140	34	20	55	22	9

職員（栃木）の支援ニーズ

必要なキャリア支援（複数回答可）

Q4. 大学全体の人材確保とキャリア推進のためにどのような育児支援が必要と考えますか (n=569)
 Q5. 現在または今後「あなた」が学内もしくは学外に保育施設を必要としていますか (n=214)
 Q6. 現在または今後、あなたほどのような育児支援内容を必要としていますか (n=214)

- 「大学全体」の人材確保とキャリア支援のために
第1位 病児・病後児保育 第2位 一時保育 第3位 夜間保育
 (上記の要保育施設者のみの回答)
第1位 病児・病後児保育 第2位 一時保育 第3位 夜間保育
- 現在または今後の「あなた」のキャリアを支援するために
第1位 病児・病後児保育 第2位 通常保育 第3位 一時保育
同3位 学童保育

職員の支援ニーズのサマリー 1

- 「大学全体」あるいは「あなた」に必要なキャリア支援として多かった回答は「病児・病後児保育」であった
- 支援が必要と回答した職員の6割は、下野市内か市外かに関わらず、育児に必要な環境(資源)をすでに整えていると考えられた。しかし、残りの4割は、現在や将来のキャリアの形成のためにはさらなる育児支援を必要としていることが考えられた
- 市内に居住する職員は児が2歳になる前に「わかくさ」保育所や市内の保育施設の利用(入所)によって対処を図ることがうかがえた
- 児の年齢や居住地に関わらず、保育施設は学内・学外いずれも必要という回答が多かった。

育児支援ニーズの内容 (保育施設を必要と回答した214名のみ分析対象)

Q7. あなたの居住地域を教えてください
 Q8. 現在または今後、下野市内もしくは市外の保育施設を利用されていますか
 Q9. 今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討されていますか

	下野市内(n=128)		下野市外(n=155)	
	今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討している	検討していない	今後、下野市内もしくは市外の保育施設の利用を検討している	検討していない
現在または今後、下野市内もしくは市外の保育施設を利用中/利用予定	39 (将来不足群)	18 (支援自己調達群)	34 (将来不足群)	28 (支援自己調達群)
利用していない	14 (現在不足群)	57 (支援自己調達群)	20 (現在不足群)	73 (支援自己調達群)
	約4割		約4割	

職員の支援ニーズのサマリー 2

- 児の年齢や居住地に関わらず、必要性の高い育児支援として回答が多かったのは「病児・病後児保育」であった
- 3-5歳や学童の児がいる職員は、必要な育児支援に「学童保育」をあげている。居住地近くの施設を利用する傾向があるが、居住地に関わらず、あらたに「学童保育」の施設利用を検討している(確保できていない)職員が少なくない。

育児支援ニーズの内容

Q10. 現在利用している、もしくは今後の利用を検討されているお子様の年齢を教えてください

	下野市内(n=128)					下野市外(n=155)					
	0歳	1歳	2歳	3-5歳	学童	0歳	1歳	2歳	3-5歳	学童	
施設 利用中/予定の	「わかくさ」	9	15	6	32	21	0	1	1	0	
	その他市内	7	8	6	23	18	0	0	1	0	
	市外	1	0	0	1	1	10	10	12	32	24
利用していない	8	5	4	3	2	10	5	4	2	11	
施設 利用検討中の	「わかくさ」	16	12	6	24	16	8	3	3	2	
	その他市内	12	5	5	17	13	1	0	1	2	
	市外	1	2	0	1	1	12	8	5	19	12
	検討していない	2	6	4	11	7	5	6	9	13	20

育児支援ニーズの内容 (Q5 & Q6 の回答より)

	下野市内(n=128)					下野市外(n=155)					
	0歳	1歳	2歳	3-5歳	学童	0歳	1歳	2歳	3-5歳	学童	
施設が必要 な場所	学内に必要	4	8	2	11	6	6	2	4	10	8
	学外に必要	3	1	3	7	9	3	3	5	11	7
	どちらも必要	11	11	5	18	9	11	10	7	13	8
支援が必要な内容	通常保育	15	13	8	22	10	16	11	11	18	9
	夜間保育	11	10	4	10	5	9	4	3	6	3
	病児・病後児保育	14	16	10	28	18	14	13	16	24	18
	一時保育	12	13	6	18	7	11	9	9	20	14
	学童保育	11	11	5	23	19	6	6	6	18	25

自由記述

記述統計

- 全回答件数：54件
- 平均語数：139語（15語～512語）
- 職種別件数：
 - 医師・研究者…19件 医療技術職員…6件 看護職…17件
 - 事務職員…8件 その他…4件（うち2件に「ラボランチン」の表記）
- 年代別件数：
 - 20代…2件 30代…19件 40代…18件 50代…13件 60代…2件
- 性別件数：
 - 男性…15件 女性…39件

代表的な意見③

- 通常保育の定員増や学童保育開始（学外の保育施設や小学校と職場との送迎なども）を求める声
 - 下野市内の保育園は激戦区で他市町村に住民票がある場合、入園が困難と市の窓口で言われた
 - この規模の病院で院内保育(通常保育)がないというのは残念だと思う
 - (児が)小学校に入学する頃には、私自身確実にフルタイムで働くことになる。(中略)仕事を辞める選択は考えたくないが、子どもの登下校の時間を考えると何かしら考える必要がある
 - 学童は、子供が通う小学校は6時迄(しか預けられず)で、お迎えに大変苦致しました。一度帰って家事終了後戻って記録することもざらにありました
 - 保育園など施設も必要ですが、送迎など切れ目なくサポートがあると、より安心だと思います

意見の集約

- わかき保育所やあいりすへの感謝の言葉
- アンケートの実施やセンターの活動に対する肯定的な言葉
- 職場風土の改善（上役への教育、ハラスメントや時間外勤務があたりまえの勤務体制の改善）を求める声
- 育児支援の手続きの簡素化やさらなる周知を求める声
- 育児支援の利用料金の引き下げを求める声
- 病児・病後児保育や一時保育の定員増を求める声
- 通常保育の定員増や学童保育開始（学外の保育施設や小学校と職場との送迎なども）を求める声
- 育児支援以外の要望

考察1（視点のみ記述します）

回収率の向上に向けた今後の課題

- Web調査の有効性を確認（全体の98.7%はWeb回答。無効回答なし）
- 再周知や期間延長の有効性を確認（8/10や8/19にセンターより周知）
- 時期や期間の影響の検証が必要（2018年調査は1/11-1/31に実施）
- 調査項目削減効果の検証が必要（2018年は24項目→今回は10項目）

センターの認知度向上に向けた今後の課題

- 支援対象範囲の検証が必要（医師や研究者のみとするかどうか）
- 周知方法の検証が必要（現状では職員の若年層の4割には届かない）
- 調査の機会にセンターの活動内容を把握している可能性（根拠に乏しい）
- 活用/利用した経験者からの口コミが有効である可能性（根拠に乏しい）

代表的な意見①

- 職場風土の改善（上役への教育、ハラスメントや時間外勤務があたりまえの勤務体制の改善）を求める声
 - 医局雇用であるがゆえに、産育休の取得や妊娠時、それ以降の雇用の継続は、講座責任者の采配によって大きく状況が異なる。(中略)職場全体(特に教授陣)への保育キャリア支援としての教育を望む
 - 男性の育児支援がなすすぎる。(中略)男性は時短がとれない。(中略)男性医師の育児参加を医局が間接的に認めていないことが大問題
- 育児支援の手続きの簡素化やさらなる周知を求める声
 - 病児や一時保育など急に必要時に簡単な手続きでその日から預けられるようにしてほしい / 師長の承諾なしであいりすの使用を許可してほしい
 - 本アンケートで回答した内容はどこかに掲示されているのでしょうか。いつも利用した方に相談した口頭での情報からしか把握できていないです

考察2

支援ニーズの明確化に向けた今後の課題

- 臨時/非常勤職員(ラボランチンなど)も調査対象者に含まれることがわかる周知方法や調査項目の検討が必要(職種「その他」が31件)
- 調査結果を踏まえた仮説の検証(例「わかき保育所」利用を検討中の市内在住の職員層は1-2年後に減少する)

調査を通じて、支援ニーズを解決・改善する今後の活動

- 調査結果のあらたな周知方法の検討・実施(ポスターを用いた結果の提示、QRコードからセンターHP(特設サイト)への誘導)
- 定期的な支援ニーズ調査の実施による、**※活動内容の定期的な評価の実施**(※利用料金の見直し、利用手続きの簡素化、利用率の増設、活動内容の周知方法改善)
- センターへの評価(調査結果や利用者の口コミ)の公開・周知

代表的な意見②

- 育児支援の利用料金の引き下げを求める声
 - 兄弟3人を預けようとすると、働いてもマイナスになる事実があります。料金の引き下げや兄弟割引等が利用できるかと預けやすくなると思います
 - 一人あたり3000円ほどかかるので、時給1000円のラボランチンからすれば高額です。
- 病児・病後児保育や一時保育の定員増を求める声
 - 病児保育が利用できないとなると、症状のある子どもを連れて出勤せざるを得ない状況です。感染症対策としてダメなのはわかっていますが、どうしようもないのが現状です。(中略)病児保育の枠を増やしていただけにないでしょうか。
 - 休日の一時保育があると休日出勤にも対応できるのでありがたいです
 - 子どもだけでなく、孫はみてもらえるのでしょうか(病気になった時)